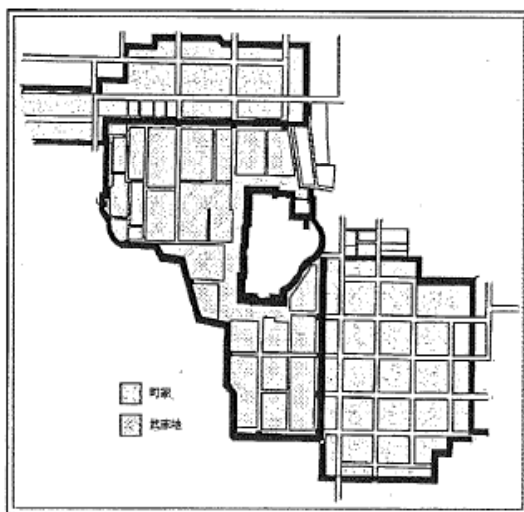


都市甲府の「背割溝」

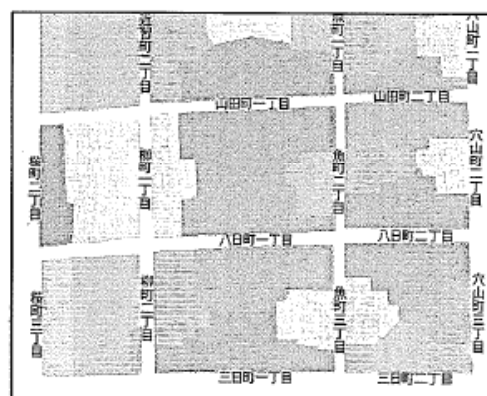
山梨県庁 御山 亮濟

1. 「背割溝（せわりみぞ）」とは何か？

① 近世「甲府」：町屋の都市計画



甲府の都市計画



両側町

- 碁盤の目状に張り巡らされた街路
- 街路に接する土地が一つの「町」⇒「両側町」
 ……一つの街区に4つの「町割」が混在
 ⇒現在の都市計画にも痕跡が残る。

② 背割溝とは何か？

町と町（建物と建物）の背同士が接する境界に設置された下水溝



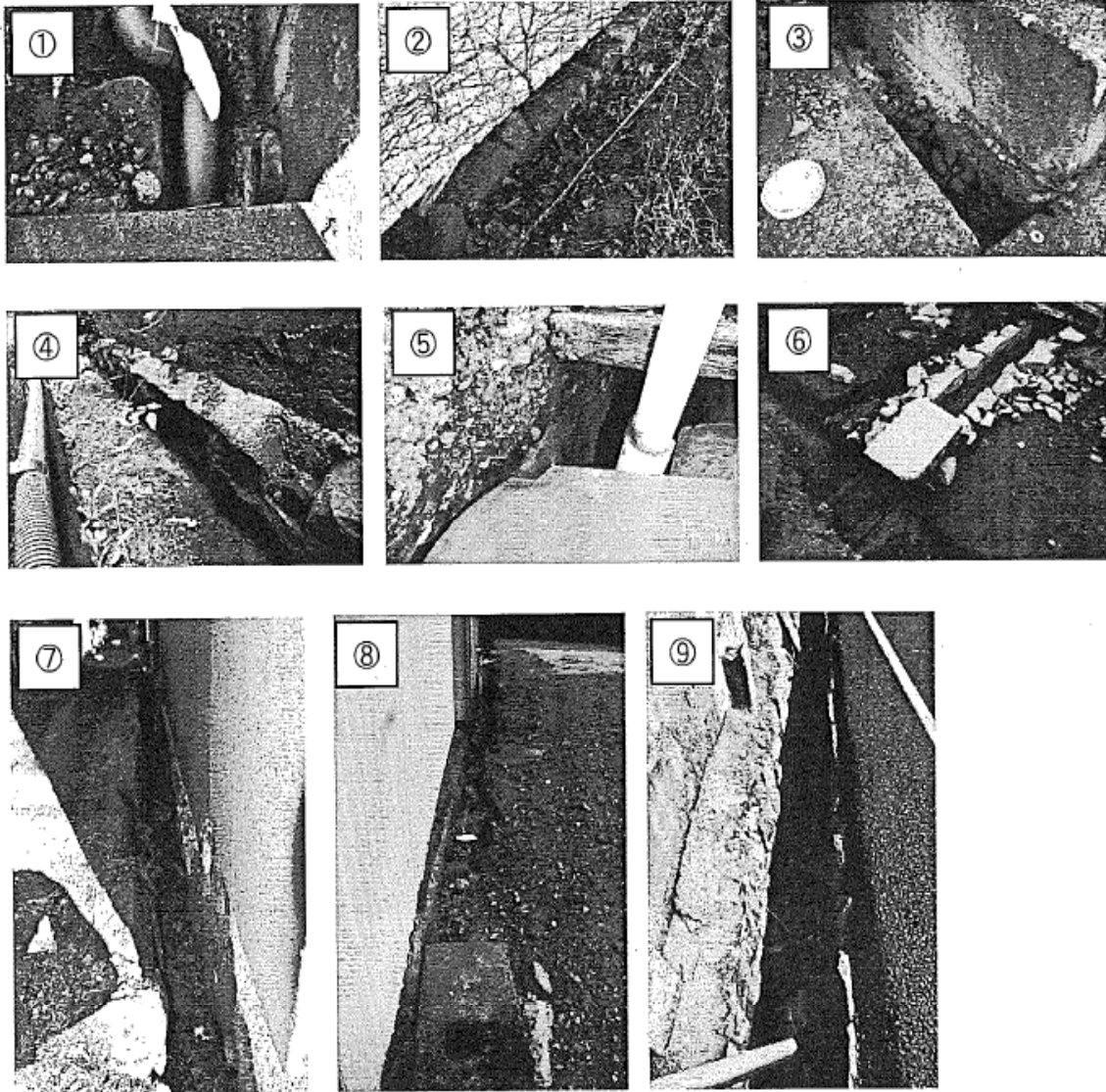
c.f.)太閤背割（大阪市指定史跡：平成 17 年指定）

- ・低湿地に形成された大坂城下町の船場地区（町屋地域）に設置された下水溝
- ・江戸時代前期には存在。現在の下水溝は江戸後期の築造と考えられる。

(大阪市建設局 2005 より転載)

2. 都市甲府の「背割溝」

①甲府のまちなに残る石組み水路



○現在の石組み水路の姿

- ・配管の通路として利用されるもの【①、④、⑤】
- ・水路として開渠となっているもの（雨天時のみ機能か?）【③、④、⑦、⑨】
- ・開渠となっているが、埋没しつつあるもの【②、⑧】
- ・すでに埋没しているもの（発掘調査により発見）【⑥】
- ・コンクリートにより埋め殺されているもの【③、④、⑤、⑥、⑦、⑨】
- ・建物や塀の基礎として利用されているもの【⑥を除くすべて】

⇒水路として機能しているものは少ないが、様々な形で現在まで残っている。

②記録に残る石組み水路



下連雀通り



上連雀通り(1)



上連雀通り(2)



春日町通り



桜町通り



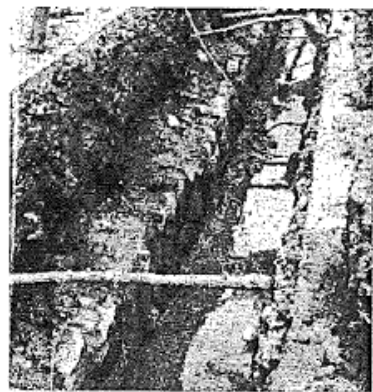
紅梅町通り



山田町通り



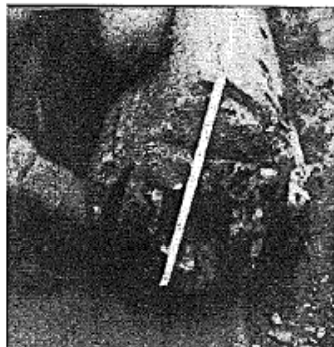
魚町通り



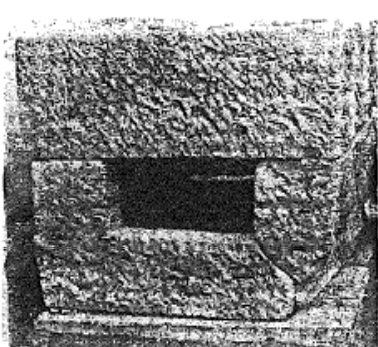
三日町通り



木樋(柳町通り)



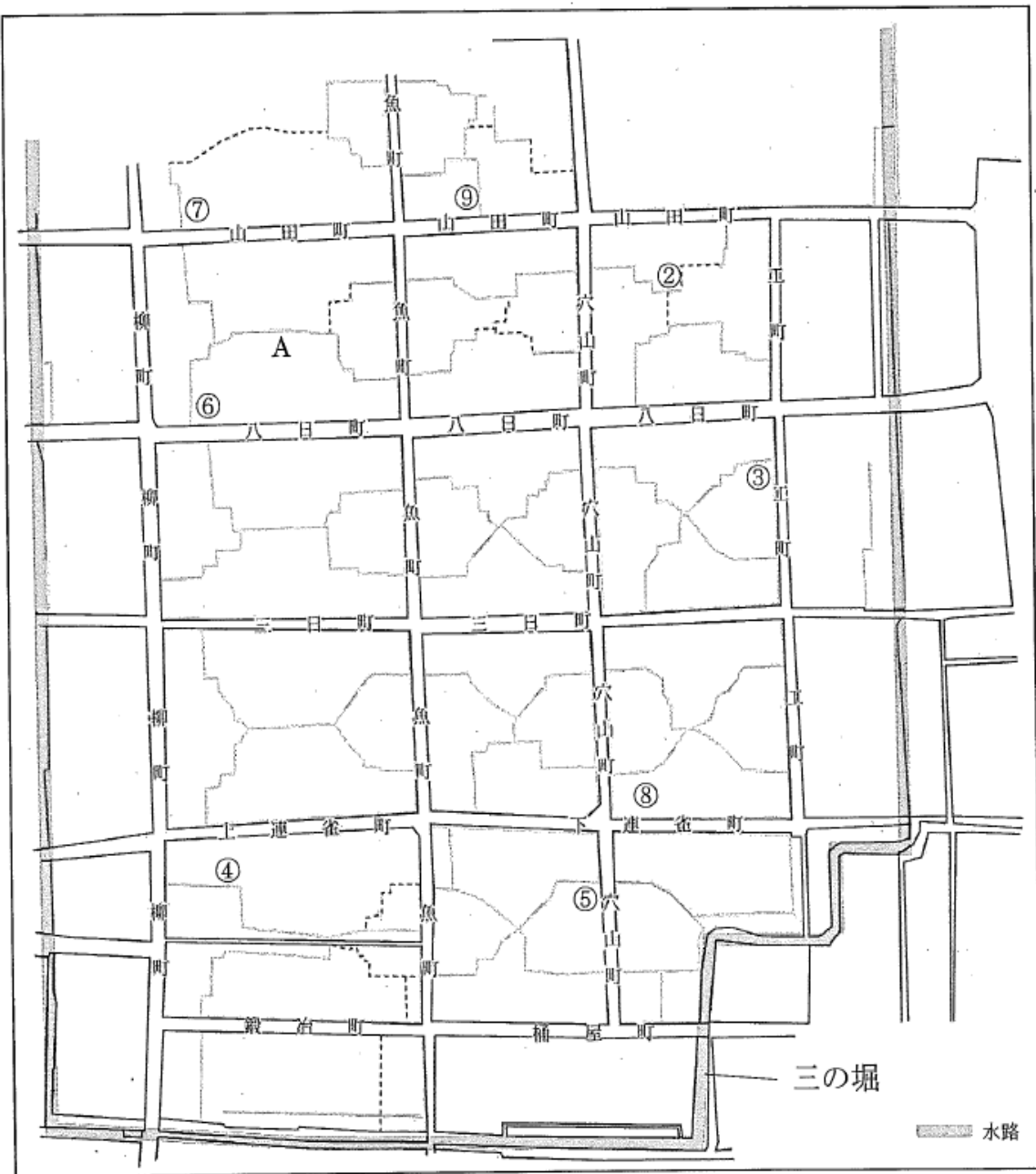
木樋(柳町通り)接続部



石拵(柳町・山田町通り隅)

(いずれも露木1965より転載)

③石組み水路の配置



※明治～大正期の測量図をもとに作図

○甲府市街地に見られる石組みの水路

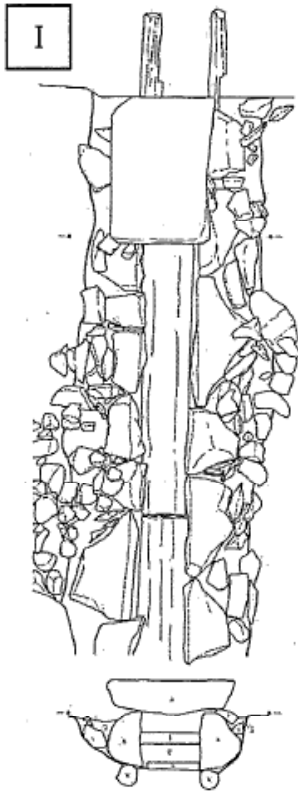
・・・測量図に示されている町割りの境界を示す水路＝背割溝の位置と合致

○街区内と街路に沿って配置される

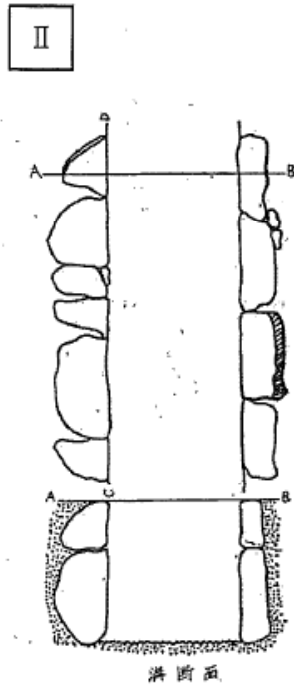
3. 背割溝の構造

○露木 1965：下水道工事に伴う掘削により不時発見された石組み水路の観察【Ⅱ・Ⅲ】

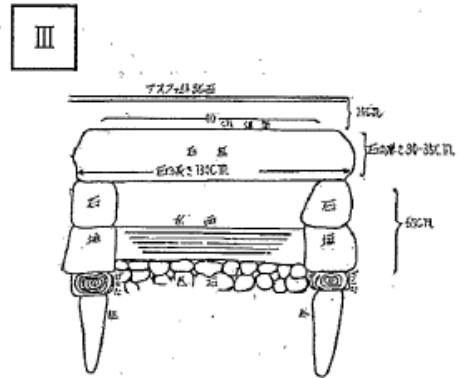
○甲府城下町遺跡（旧柳町一丁目地点）の発掘調査に伴い発見した石組み水路【Ⅰ】



柳町一丁目（写真⑥）



紅梅町通り



常盤町通り（断面図）

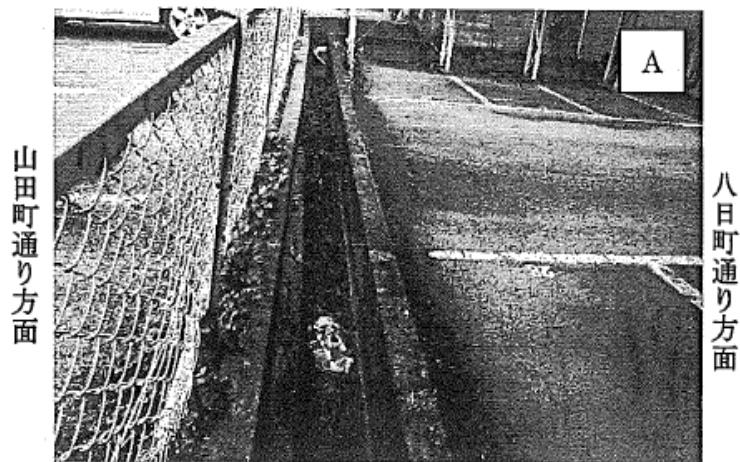
- ◎ 1～2段の石組みで構築される。
- ◎ 石製の溝蓋が架けられているものあり【Ⅰ・Ⅲ】
- ◎ 底面に板材【Ⅰ】や小礫【Ⅲ】が敷設されるものあり
- ◎ 側石を桐木と杭で支えられているものあり【Ⅰ・Ⅲ】

4. 背割溝の役割

○街区に滞留する水の排出

○町割りの境界

○高低差の解消



背割溝を境に、地面に約 50cm の段差がある。